

推薦の句

足形にへこむ旧道夏落葉

友子

理由:足形の形に凹むと言うことによつて、現に歩いて
いる道の状態が活写されている。

電車待つ子の爪光る西日かな かほる

理由:手の指の爪であるか。足の指の爪であるか不明
であるが、「光る爪」に着目したのは良い。おそらく
足元であろう。「子の爪」という事によつて、現代風
俗への作者のかすかな不安も読み取れる。自分が中
学生や高校生の頃には、マニキュアもペディキュア
も許されていなかったのに、今は社会全体が過度に
開放的である。無関心を装っているとも言える。

サルビアの明るき中の献血車

幸

理由:明暗の配合が良い。

ジョギングの西日届かぬ辺りまで 明美

理由:夏のジョギングは日陰の区域に限定されてい
るといふ見立てである。実景をよく踏まえた自然な
句である。西日の季語が奇を衒わずに本来の意味通
りに使われている。たまたま見かけたジョギング好
きは、直射日光が嫌いなようだ。

対角に汗のラケット振り切りし

明美

理由:競技の種目が卓球であってもテニスであつて
も、対角線上の対戦相手に球を打ち込んでいる選手
の姿が、「汗のラケット」で立ち上がつて来る。

添削の句

原句:政治家のあまたの嘘や七変化 明美

添削案:軽き嘘つくことあり七変化

理由:川柳に限りなく近い俳句もあるが、俳句の世界
に踏み止まつて欲しい。政治屋の嘘を嘘で塗り固め
たような悪質なものと、庶民の生きる方便としての
軽い嘘とは違う。あるいは、「政権の最終章や七変

原句:初夏の少年棋士の攻め将棋

明美

添削案:初夏や少年棋士の一札す
理由:季語は俳句の単なる添え物ではない。下五には、
上五の「初夏」に見合った「さわやか」な形容を与
えたい。「棋士」に「将棋」当てたものでは、重なりが
大き過ぎる。最初と最後の札である。

原句:未央柳活け金婚の祝ひとす ヤエ子

添削案:金婚式未央柳の活けられし

理由:金婚は元々寿ぎの対象であるから、「祝ひ」は
要らない。原句の表現では、一文構成であり、「活け
る」と「祝い」が直結した表現になっている。

原句:太陽の熱かすかに残る夏帽子

明美

添削案:陽の熱のかすかに残り夏帽子
理由:上五は最大八音まで許容されるが、これはあく
までも例外としてである。いくら工夫しても、原則
の五音に収め切れないときでだけである。「太陽の
熱」は「陽(ひ)の熱」と短縮することができる。

原句:新鮮野菜どれも百円朝涼し ヤエ子

添削案:野菜盛りどれも百円朝涼し

理由:朝採り野菜↓新鮮野菜↓朝涼のリンケージを
想起させる表現である。「新鮮」の重なりは避けたい。

原句:夏空作業声揃へ

かおる

添削案:解帆の声揃へけり夏の空

理由:展帆の句も同一作者であるが、解帆に着目した
のは良い。ただし、「解帆作業」は少し表現が硬い。
甲板またはマストの帆桁上にいる解帆指示者とマ
ストまたは帆桁上にいる解帆実施者との上下関係
を考慮して、「声が降りけり」としたい。

原句:和宮は紫陽花となる阿弥陀寺

友子

添削案:阿弥陀寺四葩にやすむ和宮

原句:カジノ誘致へ抗議のデモや大西日 友子

添削案:大西日カジノ誘致の抗議デモ

原句:夏野原入つたきりの親子犬 かおる

原句：鳥の子や轢かれし道に西日さし 邦子
添削案：大西日轢かれし鳥の骸かな

原句：庭に鎌倉びわがこぼれるる さよ子
添削案：実朝の海のたひらか枇杷こぼる

原句：独り居や初夏の風入れラジオ聴く 邦子
添削案：初夏の風優しひとりのラジオ

原句：夏草に埋もる畑作堪へ難し ヤエ子

添削案：夏草に負けじと急ぐ棚田かな

原句：梅雨晴や引きこもり避け映画見る 直子

添削案：梅雨晴や映画館へと引きこもる

原句：潮浴びや子四人連れて山越へて かおる

添削案：潮浴びの山越への路子の四人

原句：床の間に一る紫陽花が 真壽

添削案：大鉢に一朶生きあり濃紫陽花

(文責：代表 増田 守 欠席投句：古野 明美)

「事務局からお知らせ」

○七月句会

七月二十三日(日)、午後一時から、旭区民文化センター(サンハート)で行ないます。

○八月は、句会は休みです。